

## ひめじょ通信



発行：第18号（年1回発行）

発行日：2023. 5. 15

広報委員：今村朋子（編集長）・中尾慶子  
瀧本千紗・山本裕紀

発行部数：300部

発行元：一般社団法人 愛媛助産師会

（一社）愛媛助産師会 会長 原田恵美

事務局：愛媛県松山市中一万2-1

愛媛県助産師会立まつま助産院内

E mail：ehime@himejyo.jp

With  
コロナ

## 3年ぶりの対面イベント

## 南予さんばフェスタ開催！

ひめじょを代表する活動「さんばフェスタ」が、2023年10月、ついに復活しました！コロナ禍ですと途絶えていたイベントですが、南予地区会の皆さんのパワーで、感染対策ばっちり！満足度120%の**新しいさんばフェスタ**が実現しました。そこで、南予地区長の清家育子さんと原田会長のお二人にインタビューさせていただき、開催準備や当日の様子、久々のイベントの手ごたえについてお話をいただきました。（今村）

## 目次

|                 |       |
|-----------------|-------|
| * 南予さんばフェスタ     | 1     |
| * お産場探訪：産後ケア特集  | 2～5   |
| * キラキラMIDWIFE!  | 6～8   |
| * NEWS・ひめじょLOVE | 9     |
| * まつじょ・部会・研修報告  | 10～11 |
| * ひめじょのお知らせ     | 12    |



## \*初めて尽くしのコロナ禍イベント！

南予さんばフェスタの開催が決まったのは5月の総会の時で、その後、南予地区会員のLINE会議で内容を検討したそうです。久しぶりのイベント開催というだけでなく、コロナ禍ではじめての対面イベントとあって、企画～運営の全てが手探り状態！これまでと違って、完全予約制で人数制限をし、密を避けるためのプログラムの工夫など「感染対策にはすごく気を遣った」というイベント運営でした。さらに…パティオうわじまは、

今回がはじめての会場のためマニュアルも一から作成！それでも「清家さんのマニュアルのおかげで当日の準備も混乱なくできた」と原田会長も絶賛でした。予約枠に達すると締め切らないといけなかったので、申込状況とにらめっこの毎日…無事に16名の予約が埋まり、ニーズの高さがうかがえました。当日はチームワーク抜群の南予の助産師・看護師13名の力を合わせ「みんなのおかげで開催できた」と振り返る清家さんでした。

## ●チラシがcool!



清家さん

## 癒しのさんばツアー体験

4人1組の参加者を1名の助産師がエスコートして癒しのツアーを回ります。パパの参加もありママと一緒に癒しの体験をして

## \*やってよかった●対面イベント！

- 産後ケアのために取った資格を活かしたいと、手伝ってくれる看護師さんのおかげで癒し体験の選択肢が増えたそうです。
- プログラムの空き時間は、久々に会った助産師同士のおしゃべりでかなり盛り上がったみたいです！イベントは参加者だけでなく、開催する助産師も元気になる力がありますね。
- イベント後に参加者の方から「癒しになってすごくよかった。プロの人が子どもを見てくれて安心して受けられた」と長文のお礼のメールをいただいて感動したそうです！

①まずは選べる  
リラックス体験！

ハンドマッサージ  
佐藤式リンパケア  
リフレクソロジー

②スキンシップ遊び  
赤ちゃんと一緒に遊ぶ

## ③少人数おしゃべりタイム

ツアーも終盤になるため  
自然に会話が盛り上がります。

④南予名物フォトスポット  
記念撮影の映えコーナー  
は松下さんの力作！

産後ケア  
特集  
Part 1

## 混合病棟の中で取り組む産後ケアの実践 四国中央病院 産前産後ケアセンター

四国中央病院 助産師 愛媛助産師会理事・広報委員 中尾慶子



### 【当院の概要】

当院は、産婦人科病床18床、一般病床21床の地域包括ケア病棟です。2015年に助産師外来を開設し、加えて病院内に子ども虐待対応組織（以下、CPT：Child Protection Team）

を設置し、社会的ハイリスク妊婦への対応も担っています。医療機関と行政が連携強化するために、院内での対応方針の統一、役割分担の明確化、スタッフのスキルの向上に向けて、定期的な会を開催しています。

### 【産前産後ケアセンターについて】

2017年から保健センターと協議を行い、同年7月から産後ケアが開始となりました。対象者は①住民票が四国中央市にある、②育児不安がある、③育児支援者が居ないの3点です。しかし現在は、育児支援者が居ても、協力が得られない方もおり、本人が希望するケースは、全例産後ケア申請の対象となっています。当院では、助産師外来で育児支援状況を把握し、産後入院中に、保健師に繋ぎ、申請を行うことで、早期に産後ケアを利用出来るように工夫を行っています。

### 【産後ケアのサービス紹介】

デイスサービス利用の方は、10時に来院し、本人とベビーの様子を聞かせてもらい、沐浴の希望があれば、スタッフが行います。授乳が不安なお母さんには、授乳に合わせてケアを行います。不眠のため休息を希望される方には、リラックス効果を高められるように、バスオイルを使った足浴をしたり、アロマトリートメントを行っています。昼食をとり、15時にはおやつを出しています。ショートステイ利用の方は、夜間授乳以外にベビーの預かりを希望する方が多いので、他の新生児との接触を避けるために、新生児室の感染症室に預かります。当院では、産婦人科領域をユニット化しており、産後ケア利用者は、ユニット内の和室を使用し、他科の患者との接触がないように工夫しています。

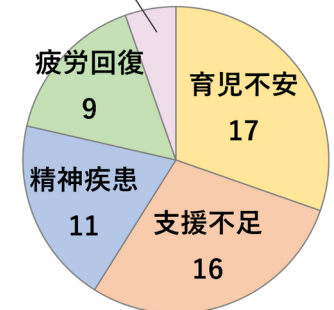
### 【産後ケアの利用について】

コロナ禍になり、より一層産後ケア利用をする方が増えています。特に第5波の時には、退院後そのまま利用

をする方、里帰りが出来ない方などを中心に、毎日予約が埋まっている時期がありました。

専従のスタッフが置けない為、予約が入ると、日勤1名、準夜勤1名、深夜勤1名で担当を決めて対応をしています。日勤では、分娩担当や、ベビー担当が中心となり担当しています。

ベビー搬送：3



産後ケア利用理由  
延べ人数（重複あり）  
N=36

### ……産後ケアの利用状況……

- ・デイス：18件、ショート：27件
- ・産後ケア利用の平均年齢：32.8歳
- ・初産婦21人、経産婦15人（2018年7月～2022年5月）
- ・産後ケア利用開始時期  
平均45日目（当院出産の方）  
平均52日目（他施設出産の方）
- ・利用回数：平均2.6回

他施設で出産した方は、産後ケア申請をする時期が遅れ、利用開始時期も、当院出産の方よりも申請・利用開始時期が遅くなっていることがわかりました。利用回数は、平均2.6回と、7日間全て利用される方が少なく、期間内に利用出来ない方が多くいました。

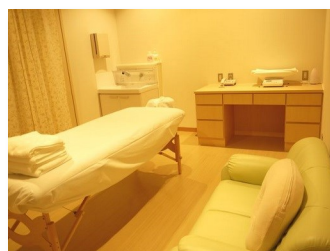


●フレンドオイル  
にて足浴中

現在、隣接する三好市（徳島県）の産後ケア事業の委託を受けており、利用料金が、ショート：4000円、デイス：1000円（自己負担額）に設定されており、妊娠期から申請し、利用されています。

### 【産後ケア利用者と助産師との信頼関係の構築】

産後ケアを利用する褥婦のパーソナリティや両親との関係、夫との関係などが把握できるケースは、妊娠期から助産師外来で私達と信頼関係を構築している方です。産後ケアの利用目的も『知っているスタッフが居るから。』『お産の経過や、母乳育児のことなど相談しやすい。』という意見をいただき、利用期間内の退院後早期に利用しています。しかし、『もっと早くに知っていたら良かった。』といった意見もあり、産後ケア利用者は、退院後早期に利用したいケースが多いことがわかりました。経産婦では、利用したくても、上の子の行事などと重なり、期間内に1回しか利用出来ないこともあります。そのような方には、利用期間を延長し、産後5ヵ月まで、利用延長の申請も可能になりました。また、産後ケアだけでなく、母乳外来でも継続的に支援を続けています。



●アロマ&母乳外来室



●ユニット化の和室



### 【産後ケア利用者のアンケート結果から】

産後ケア利用して良かったこととして『助産師とのコミュニケーション』が最も多く回答していました。また、産後ケア利用中に、体調がすぐれず、産婦人科受診をしたケ方や、ベビーの皮膚トラブルで、小児科医師の診察を依頼出来ることも、当院で産後ケアを利用するメリットだと思います。

### 【産後ケアの質の向上につなげていくこと】

全国的に産婦人科単独病棟は減っており、混合病棟が増えています。このような背景から、母子へのケア不足、安全管理、感染対策が課題となっています。国の産後ケア事業推進は進んでいますが、受け皿としての施設不足や、助産師不足は解消されずにいます。また、月齢が進んだベビーの対応は、新生児とは違い、助産師の対応力やスキルが必要となります。当院は、学生実習の受け入れ施設でもあり、学生が産後ケアの実際を見る機会を持つことも、貴重な経験につながると思い、共に学びを深めています。6年目を迎える産後ケアでは、第1子から第2子も同様に利用するなど、継続的にケアをすることもあり、助産師としてのやりがいを感じています。

産後ケアの事前申請をする上で、妊娠期から注意していることは、DVスクリーニング2点以上、心療内科受診歴、妊娠期



EPDS高値、育児支援者が不足しているなどです。これ以外にも、産後に育児不安がある方、要支援妊婦、特定妊婦にも事前申請をすすめています。

2022年10月から、行政の補助券を利用し、2週間健診を受ける方が増えました。私達も産後ケア、2週間健診、1ヵ月助産師外来で、メンタルヘルスについてアセスメントする機会も増えました。様々な育児困難事例、ボンディング障害事例もありました。産婦人科のチームや、CPTの会でも情報共有し、対応するスタッフを皆で支えられるよう、普段から話し合える関係を大切にしています。このような支援を継続していくことは、施設内で産後ケアを行う上で、とても重要なことだと感じています。

施設内では、コロナ禍で面会制限、立ち合い分娩中止が続き、閉鎖的で、母親以外の情報が得られにくい環境にあります(2023年4月5日から分娩立ち合い再開)。だからこそ、SDGsの理念でもある『誰一人取り残さない』世界。『3. すべての人に健康と福祉を』の達成に向けて、どのような状況においても、助産師のケアを継続的に受けられる仕組み作りを考え、妊娠、出産、産後を伴奏していきたいと考えています。愛媛助産師会の研修参加や、助産師会メンバーとの交流の中で、さらに視野を広げていきたいと思っています。



R4  
東予研修

## 心理社会的ハイリスク妊産婦への支援

～周産期にみられる精神疾患EPDS、ボンディングの理解と支援～

2022.8.28 山岸 由紀子 先生 (助産師)

Online

### 講師紹介：山岸由紀子 助産師

一般社団法人産前産後ケア推進協会  
訪問看護ステーションco-co-ro 管理者  
北村メンタルヘルス研究所 客員研究員

### EPDSの結果を読み取り

その先の支援につなげる大切さを実感

愛媛助産師会理事 四国中央病院 中尾慶子

今回、山岸さんに講師を依頼した理由として、勤務病院では、普段から助産師外来で、EPDSのスクリーニングを全妊婦に実施していますが、スクリーニングをするだけで止まっていたからです。また『EPDS』の得点が陽性なので『精神科の専門医療機関に紹介します。』という筋縄ではいけないのが現状であり、そこからどのように、他職種と連携してつないでいくのかを学びたいと思いました。

山岸さんの研修では、周産期メンタルヘルスケアの特徴や、スクリーニングで用いる質問票の因子構造等にも注目して、スクリーニングから何を読み取り、その先の支援をどう対応していくかなどが示されていました。特に接し方には、高度の心理的支援技術が要求され、その部分の時間をかけた研修が、これからも必

要だと感じました。

産後に見られる精神疾患は、うつ病に限らず、様々な疾患を発症します。単に、自己記入式調査票に頼るのではなく、心理的な問題が疑われたケースにおいて、注意深く面接し、助産師が評価できること、信頼関係を構築することがとても重要だと思いました。助産師の経験の中だけに頼るのではなく、日々こうして、知識のアップデートが必要であり、資料内容を見直し、チーム内でも情報をシェアし、アウトプットしていきたいです。

今回の研修開催にあたっては、私と同じ助産師学校を卒業し、同じ病院で勤務したこともある先輩の山岸さんに相談し、講師を依頼し、何度も打ち合わせを重ね、愛媛の現状も理解していただきました。zoom開催で、後日の配信もあり、多くの方が興味を持って研修に参加されたのではないかと思います。事例など踏まえ講演内容を準備していただきありがとうございました。



産後ケア  
特集  
Part 2

## 地域の小児科で取り組む産後ケア ゆりかごファミリークリニック (新居浜市)



### ●鈴木 さゆり 助産師

- ゆりかごファミリークリニック
- 産後ケア・訪問担当助産師
- 出張訪問助産師すずき

西条中央病院で助産師として長年勤務された鈴木さん。

退職後は、西条市で出張訪問助産師を開業し、活動を行いながら、ゆりかごの産後ケアや訪問に携わる。大藤先生とは西条中央病院の小児科病棟勤務時代に出会い、今に至る。



訪問助産師ロゴ



助産師 × 小児科医師  
最強タッグのお二人！

### ●大藤 佳子 医師

ゆりかごファミリークリニック院長

- 日本小児科学会専門医
- 愛媛県医師会理事
- 認定NPO法人ラ・ファミリエ理事

愛媛県内各地の総合病院や子ども療育センターで小児医療に携わってこられた大藤先生。子どもと家族の生活を地域で支えるために在宅医療を学び、2022年にゆりかごファミリークリニックの開業に至った。



- 1階が小児科外来とリハビリ室、2階が産後ケアや短期入所の病棟です。

ゆりかご  
HP



### ◆ゆりかごファミリークリニックについて

**2022年4月**：仮の診療所で開業し、訪問診療と小児科外来、訪問型の産後ケアを開始

**2023年1月**：医療型短期入所や小児リハビリの機能を備えた新しい施設に移転オープン。2部屋の産後ケアの病室も整備され、宿泊型も可能となった。

### \*ゆりかごの名前に込めた思い ～HPより～

～そこに暮らす人が1つの大きな「ゆりかご」に乗っているかのようにどんな時でも安心して過ごせ、心身のことで心配なことがあればいつでも頼ってもらえるようなクリニックを目指したいと思い名付けました。そして、たとえ病気や障がいがあっても、子どもから大人まで住み慣れた地域ですっと生活していけるように地域をまるごとみることが目標です。～

.....

### ◆ゆりかごで目指す、様々な垣根を越えた切れ目のない医療

大藤先生は、もともと小児がんの子ども在宅看取りや重症心身障がい児が家で過ごすため、在宅医療に取り組み始めたことから、活動の場が施設から家へと広がっていったそうです。さらに重症心身障がい児の方が、子どもから大人になっても診られるようにと考えていると、**場所・年齢・障がいの垣根もなく「どんな子ども大人もずっと地域で暮らしていけるように」**という理念のもと「ゆりかごファミリークリニック」の開業に至りました。

今回、新しい施設のオープンにあたって、「いつも

訪問診療をしている重症心身障がいの方の家族がレスパイトできるためには短期入所施設もいるし…、子育て支援のためには、宿泊型の産後ケアも必要だし…、と考えていくうちに、**この地域にはないものをくっつけていったら、今の施設の形になりました。**」と、様々な機能を兼ね備えたクリニックにした理由を教えてくださいました。そして、「この施設で、産後ケアで来る赤ちゃんから障害がある子まで、いろんな子が、遊んだり学んだりしながら病棟で楽しく過ごせるようにしていきたい。」と、思いを語っていただきました。

### \*小児科医として必要性を感じた「産後ケア」

**大藤医師**：小児科医としては珍しいかもしれないけど、産後ケアは、西条中央病院にいる頃から知っていました。普段の小児科の診療の中で、家族のフォローだけでは難しく、産後ケアで専門的なフォローが必要な母子がたくさんいるな…と感じていました。例えば、小児科で子どもの発達障害を長く診ていると、その子たちが母親になる年代になってきて、丁寧に育児支援し

ないと赤ちゃんが普通に育たないケースが増えていて、産後ケアのニーズがあることを実感しています。

子どもにとっては、親も「環境」だと思っているので、両親が楽しく子育てすることが、子どもにとっていい環境になるので、病気や障害があろうが、なかろうが、「子育て支援」としてフォローができる体制があったらいいな…と、いつも思っています。



- 2階の病棟フロアの真ん中にある「ゆりかご」のような大きなブランコ!?
- 天井のライトは、黄色い線で結ばれた星座ごとに点灯！子どもが喜び工夫満載です。



## ◆ゆりかごファミリークリニックでの産後ケアの実際

### \*宿泊型で「夜」を含めて支援する大切さ

**大藤医師:**総合病院にいた時は、母親の子育ての困りごとが原因で、子どもに影響があるケースは、「小児科入院」という形で母子が一緒に入院できるようにしていました。やっぱり、手厚い育児支援が必要な場合は、宿泊して、夜の授乳や赤ちゃんのあやし方など、「夜」の育児支援ができるようにすることが、効果があると感じていたので、クリニックで宿泊型の産後ケアに取り組んでいきたいと思いました。

### \*訪問型のケアで、家での具体的な困りごとを解決する支援の大切さ

**大藤医師:**訪問は特別な子だけに行くと思われがちですが、「子育て支援」として「家に行く必要がある」と思うんです。新居浜市からゆりかごに委託される訪問型の産後ケアは、仮設クリニックの時から全て助産師の鈴木さんをお願いしています。助産師が訪問に行くからこそ、その家に合った育児の指導ができるし、お母さんが本当に聞きたい生活の中での困りごとが、具体的に解決できると思うんです。

**鈴木助産師:**現在は、私が主に日帰りや宿泊型の産後ケアを担当していますが、一人ではできないので、他に契約している助産師さんや、ゆりかごの看護師さんにも一緒に手伝ってもらって、ケアを行っています。1月に施設をオープンして約1か月で、早速3件の宿泊型産後ケアがありました(2月末に取材)。お母さんをしっかりと癒して、笑顔になって帰ってもらえるように丁寧にケアしたいと思っています。

また、クリニックとしては、訪問は「産後ケア(収入に応じた自己負担あり)」の制度だけでなく、「訪問看護(新居浜市は子ども医療費助成で18歳まで無料)」も使えます。特別にフォローが必要な診断名がつくようなケースでは、医療保険を利用した訪問看護の方で支援することもできるので、そうすると利用者の費用負担もなく、必要なケースのフォローが確実にできます。



● ゆっくりくつろげる産後ケアの個室。お部屋を出ると左ページ写真の広い病棟フロアなので、1歳近い子どもがはい回っても大丈夫なスペースがあります。



● 赤ちゃん用のベッドは、24か月まで使える海外製品。横の柵を倒して添い寝ができるようになっていたり、寝ている赤ちゃんを保護できる蚊帳がとても可愛い！(上の写真が蚊帳を閉じたところ)

## ◆地域の子育てを支える、助産師 × 小児科医の最強タッグ

### \*それぞれの専門性を生かして、子育てを支える

**大藤医師:**健診やワクチンで来た子を、どうフォローしようかと思う時、私はよく鈴木さんと呼びます。小児科医だけで、助産師がいないところでの育児指導は難しいので、頼りにしています。今後、お産は減るかもしれないけど、濃厚に関わってもらいたい子は増えると思うので、妊娠期から1歳頃までのお母さんと赤ちゃんの両方に関わって、生活の中で育児支援ができる助産師さんの専門性を発揮してほしいと思います。

**鈴木助産師:**産科は生後1か月までの関わりが主だけど、実際はそれより後の育児の方が長いし、赤ちゃんのことで相談したいのは、やっぱり小児科の先生だと思うんです。ゆりかごでは、ちょっとしたことも大藤先生に相談できるのが強みです。今はまだ、大きな子の産後ケアの依頼はないですが、産後ケアが1歳まで延長されたこともあって、月齢のすすんだ子どもをみることもできるのも小児科ならできそう…と思います。

### \*出張訪問助産師としてもゆりかごと連携

**鈴木助産師:**新居浜市の産後ケアは宿泊型も訪問型も、ゆりかごのスタッフとして行っていますが、西条市の訪問型の産後ケアは、「出張訪問助産師すずき」として独自で行くようにして、地域で活動を分けています。

それ以外では、ゆりかごの小児科外来に来た方でも、ちょっとだけフォローが必要な人などは、先生とも相談して、助産院の「LINE相談」で気軽につながれるように支援することもあります。最近は、ゆりかごの施設が新しくなって忙しいけど、助産院の活動として、

いろいろやっていきたいこともあります。赤ちゃんを抱いて踊る、産後ダンスもやってるんですよ。

〔◎パワフルですね…(°Д°)!!〕

自分自身、これまで病院の小児科で少し働いたり、子育て・孫育てもさせてもらって、子どもが育つ様子やイマドキの育児も知っていることが、今の実践にとっても役に立っています。今、ゆりかごと助産院の両方で、お母さんと赤ちゃんに関われることが、とても楽しいです。

## ◆地域をつくる！愛媛全体の子育て支援を変えていく！ゆりかごのこれから……………

「ここにいろんな人が集まって、連携しやすい拠点になればいいかな…」と話される大藤先生。取材で印象的だったのは、「地域をつくる」という言葉でした。地域全体のニーズを読み取り、そこで必要とされる施設を開設し、そこに多職種の人が集まることで、1つのクリニックの存在が地域の暮らしやすさを大きく変え

ていく！ということを実感しました。また、医師会やNPO法人の理事をされている大藤先生は、東予地域だけでなく愛媛県全体の子育て支援の施設の充実に向けて、さらなる展開を考えておられるとのことでした。愛媛助産師会としても連携し、実現したら、ぜひ取材に伺いたいと思います。(広報委員:今村朋子)

## 新コーナー

## ★ キラキラ ミッドワイフ ～Midwife～ ★

ひめじょうに新コーナーが誕生しました！これまで「お産場探訪」で様々な「施設」を取り上げてきましたが、施設という枠にとらわれず、愛媛でキラキラ輝くような活躍をしている助産師さん「その人」の活動や思いを紹介するコーナーです。名付けて「キラキラミッドワイフ」です！初回ということで、広報委員の情報ネットワークを駆使して、たくさんのキラキラ輝く助産師さんたちを見つけて取材させていただきました。



## ★ 助産師を軸として枠にとらわれず活動を広げる助産師

助産院 emi 田中恵美子さん（松山市）



勾玉とeをイメージした  
助産院emiのロゴ  
(emiさん作)

## ● 田中恵美子さんのご紹介

大学病院の産科・NICUや市内のクリニックで勤務。第1子の妊娠を機に助産師の仕事から一旦離れたが、3児の母となり、助産師として復帰を考えた際、「妊娠期から産後までじっくり体と心のケアをしたい」「子育てとの両立を無理なくマイペースに活動したい」と2016年に出張専門の助産院emiを開業。それと並行して梅岡産婦人科にも勤務し、2020年～22年には10年以上離れていた分娩介助に再び挑戦。そして、2023年3月、支援の拠点を新築し助産院emiをオープン。そんな活動的なemiさんの助産師としての思いについて今回お話を伺いました。

リンパケア等が受けられる施術台や各種教室にも利用できる大きな鏡も！



片流れ屋根が素敵な助産院

パンフレットにも工夫が満載♪  
このパンフレットは本に大変身！

## 産後ケア助産師としての助産師emiさん

「あなたのもとに、スーパーマンのように飛んでいきたい」をモットーに、県内の産後ケア（アウトリーチ）に従事。「心も身体も癒されました。」「今まで全然寝なかったのがよく眠ってくれるようになり、1ヶ月間の悩みが一気に解決しました。」など、ママたちからも好評♪助産院が建ったことで、訪問による相談事業だけでなく、来所していただくことも可能となりました。「たくさんママが集まる場所には入っていきにくいママたちが、ふらっと立ち寄れる場所になったら」と思いを語ってくださいました。

## リンパケアインストラクターとしての助産師emiさん

リンパケアの資格を取得され、押さない・揉まない・引っ張らないケアを行っています。優しく触れることで筋肉がゆるゆるふわふわになっていくそう♪インストラクターとして、リンパケア・セルフケア講座も開催中。



## 中医学薬膳インストラクターとしての助産師emiさん

さらにemiさんは中医学薬膳のインストラクターの資格も取得され、簡単に自分の体調・体質、自分に合った食材や養生方法がわかる講座も開催中です。素敵なチラシの数々は“Canva”というアプリを使って、スマホで作られています♪



## 絵本作家 SANBA. EMIとしての助産師emiさん

「絵は描けないけど、ことばが好き。心に響くことばを絵本として出してみたかった。」とemiさん。筆文字はemiさん直筆です。Amazonの電子書籍Kindleで見ることができます♪



## ラジオDJとしての助産師emiさん

emiさんは、音声配信（STAND. fm）で「こえ浴」も配信中。ほっとする優しい口調で癒してくれます。寝る前の視聴がおすすめです♪



ほかにも、インターネットとリアルの両方で交流できるサイト「ひめピヨくらぶ」も運営（詳しくはひめじょう17号）。そんな多才なemiさんが次に挑戦してみたいことは…？

「ウクレレのコンサート」だそうです♪これからも、emiさんのご活躍から目が離せませんね♡（取材：瀧本千紗）



## ★あなたの近くのキラキラ助産師さんをご紹介ください → timamura@epu.ac.jp

次号からもコーナーを続けていくにあたり、自薦・他薦を問わず、ぜひ、会員の皆様から素敵な助産師さんの情報をお寄せください（助産師会会員の方に限ります）。新人さんからベテランさんまで、年齢・経験・勤務・開業などの活動スタイルやその内容は問いません。キラキラしていればOKです！（例）助産師としてちょっと成長が実感できた！新しい勉強にチャレンジしている！etc…身近な活動でまいます。また、取材依頼が来た時は、ご協力お願いいたします！



●情報はコチラまで  
メール自動送信QR





## ★東予地区で長年、助産師活動を牽引する先輩助産師！ 令和4年度 厚生労働大臣表彰 さなだ助産院 真田千恵子さん（西条市）

### ●真田さんのご紹介

これまで愛媛助産師会理事や全国学会実行委員など様々な形で助産師会をリードしてこられた真田さんが、厚生労働大臣表彰を受けられました。コロナ禍で東京での表彰式がなかったのですが、取材では「普段着よ…♥」と言いながら、素敵なお着物で表彰状をご披露いただきました。今回は、助産師会という組織で活動することの大切さについてお話を伺いました。

【ご略歴】横浜の病院→住友病院→専業主婦時代（東京やオランダ在住）→西条中央病院→さなだ助産院開業（2018年～）と、助産師歴36年のキャリア！現在は出張専門で西条市の産後ケアに携わっておられます。

### ★開業への思いやこれからの助産師に期待すること

横浜の助産師学校を卒業して横浜で就職し、新人の時から開業しようと思ってました。横浜は開業助産師さんの活動が盛んで、病院で働いていても身近でしたし、若い病院勤務の助産師は、すぐにお産もたくさん経験して（今とはけた違いの1年で100例以上）、みんな恐ろしくくらい自信満々で「開業できる！」といった勢いがありました。病院の中でもお産にはほとんど医師の介入はなく、助産師がもっと強かった時代です。地元に戻ってくることにになり、横浜で開業にはなりま

せんでしたが、その後もずっと開業したいなという思いは持ち続けて、今の開業に至ります。開業の形（保健指導開業）は変わりましたが…。

今、若い助産師さんたちが保健指導で開業してくれるのはうれしいけど、私はお産が好きだから、若い人がもっとお産の場面でもお母さんたちを助けてあげてほしいな…と思います。中堅どころの一番いい助産師さんが仕事をやめていくのはもったいないな…と。

### ★助産師会の組織として、助産師の未来を創ること！

若い助産師さんがもっとお産に自信を持てたり開業できるように、助産師会としてバックアップできる体制があるといいなと思います。あとは、産後ケアのシステムや値段にも地域差がありすぎて、そうしたことを改善するためには、組織での陳情が必要だと思えます。個人で要望を出しても、通りませんから。例えば、助成金をもらって各地区に助産師会の産後ケアセンターをつくるか…。若い助産師が未来を描けるような取り組みができればいいと思います。そのために助産師会はとても重要な組織だと思います。（取材：今村朋子）



## ★鍼灸師として新たな一歩を踏み出し女性を支援する助産師 ふれ愛はり・きゅう 富田恵子さん（松山市）

### ●富田さんのご紹介

総合病院・クリニック・助産院での勤務を経て、一念発起して鍼灸学校に進学。鍼灸師の免許取得と同時に、令和4年に鍼灸師として開業。現在は出張専門で活動し、自宅での施術や助産院等の場を借りて女性のためのお灸クラスを開催しています。今回は、まつやま助産院の施設利用で、鍼灸&整体の施術の勉強会を富田さんと関さんのお二人でされているところにおじゃましてお話を伺いました！

### ★鍼灸師を身近に感じていた理由

西洋医学と違って、東洋医学では医師でなくても手が出せるし、しかも体にいい全身治療ができるというのを感じていました。愛媛助産師会で鍼灸の研修があったり、以前勤務していた、ふれあい助産院（現在は閉院）でお灸教室が開催されていたりと、鍼灸は、助産師に向いてる身近な資格だと感じていました。

### ★もう一つ何か勉強したいと思ったきっかけ

まつやま助産院で妊婦さんを担当し、その人を自分だけに任されるようになった時、個人の力量が関わってくることを痛感しました。前期破水や分娩遷延で病院に搬送せざるを得ない時、産婦さんが「ここで産みたい」と泣いている姿を見て、自分もつらくなって「何か他にできたんじゃないか…、もっと妊娠中から

安産になるために、共にできたことがあったんじゃないか…」と思ったことがきっかけです。お産はこれまでたくさん経験して自信もありましたが、その前に、産婦さんを安産に導くためのケアと指導の力が私には足りていないと感じるようになりました。そして、何か勉強したいと思って、アロマや食事療法など学んでみたけど、全部表面的な理解で、理論づけて説明できないし、自信を持って言えない状態でした。産婦さんにもっと説得力を持って説明できたら「やってみよう」と思ってもらえるのでは…と感じて、本格的に学校で東洋医学を学ぶことにしました。

### ★助産師として、鍼灸師としての今後

今後は、鍼灸で女性を癒していきたいです。できることなら助産をしながら鍼灸師をしたかったけど、鍼灸もまだ未熟なのに両方するというのは無理なので、まずはある程度、鍼灸の自信がつくまでやって、それからまた助産に戻るというのもありかな…と思って

います。もちろん自分が助産師であることは変わりません。今後は、施術所をつくって、女性を中心にした鍼灸院として活動を広げていきたいです。（取材：今村朋子）



FUREAIHARIKIYU

## ★超音波検査士としてのスキルを活かして診療所で活動する助産師 いのうえ産婦人科 助産師・超音波検査士 高橋真有美さん（今治市）

### ●高橋さんのご紹介

高橋さんは、30代で公立病院を退職後、医師会立の看護学校に7年間、産婦人科診療所に13年間勤務されました。診療所勤務の中で超音波検査士の資格を取得し、そのスキルを実践に活かした活動をされています。

### ★助産師として、超音波検査士を取得したきっかけは？

常勤医師が1人の診療所では、総合病院とはまた違った助産師としての責任の重さを痛感しました。それで少しでも自分で診ることが出来たらと思ったのがきっかけです。また、診療所に神奈川こども医療センターの川瀧元良先生がハンズオン研修に度々いらして下さって、今治の医師や助産師有志に知識・技術を惜しげもなくレクチャーして下さる機会に恵まれた事も、エコーに取り組んでみようかなと思うきっかけになりました。超音波検査士になるには、日本超音波医学会に入会し、3年経過していることが条件で、その間に症例レポートを提出し、専門医・指導医の推薦を得た上で受験となります。

### ★超音波検査士になって良かったことは？

入院判断の際や分娩第1期に、推定体重・羊水量の確認、臍帯巻絡の有無、胎盤の状態などは、必ず確認するようにしています。内診と併せて回旋の状態も確認しています。妊婦健診時に、コミュニケーションツールになることはもちろんですが、顔面や頭蓋内構築・心内構築の異常から染色体異常が見つかったり、腹壁破裂など診療所で産まれてしまうと対応が困難な事例を、産まれる前に余裕を持って適切な医療機関に紹介する事も出来ました。程度にもよりますが、腎盂拡張や単一臍帯動脈などを事前に把握し、医師に報告、スタッフに周知しておく事によって自施設での分娩後の対応も慌てなくて済みました。特に、出生直後に動脈管依存性ショックに陥る心奇形は、胎児期に見つけて高次医療機関に紹介し

ておこなうは大変な事になります。ローリスク分娩を安全に、満足のいくものに、そしてその先にリレーしていくことが、診療所の助産師の役割だと思います。

### ★診療所勤務の中で心に残っている出来事

看護学校を退職し、診療所勤務となった後にも、看護学校で受け持った沢山の学生さんと今度は妊産褥婦さんとして再会する機会に恵まれました。かつての教え子が立派にお産する姿は、なんとも感慨深いものでした。

診療所では、高次医療機関にお世話になる日々でしたが、上下ではなく、『連携・協働』の横の関わりをして下さった地域周産期母子医療センターの医師・スタッフの方々には本当に頭が下がる思いです。

### ★これから挑戦してみたいことは？

2023年5月に、勤務する診療所の閉院を機に、自分の助産師人生を改めて考える機会にと、マミー助産院を訪れました。病院の師長も経験された、院長の阿部先生が最後に辿り着いた助産院でのお産は、豊富な知識と技術・経験に裏付けられた適切な助産診断がありました。それがあからこそ、正常から逸脱した時には、快く引き受けて下さる囑託医・囑託医療機関との良好な連携関係が築かれているのだと強く感じました。将来的に今治でもそういった場が出来たらと勝手な妄想が膨らみましたが、これまで培ってきた経験や人脈を大事にしながら、自分なりに地域貢献していける形を模索していきたいと思っています。今日この頃です。（取材：中尾慶子）



かわいいうろご

## ★健康で笑顔あふれる癒しの場、すべての女性のトータルケアをめざして！

LABO助産院（2022年7月開業） やまうち ひとみ 山内一三さん（西条市）

### ●山内さんのご紹介

3児の母でもあり、日本妊産婦整体協会会員・離乳食アドバイザー・家庭性教育マイスター・NLPプラクティショナー（プロコミュニケーション）の資格などを持たれる山内一三さんは、妊娠から出産に向けて変化する心と身体のケア、そしてママへの包括ケアを強みに活動されています。地域の助産師として、女性にとって頼もしい存在の山内さんです！

### ★開業しようと思ったきっかけは？

保健指導で妊婦さんの腰痛や恥骨痛に悩まれている方が多く、妊娠期から骨盤ケアがしたいと思ったのがきっかけでした。

### ★山内さんの強みは？

妊娠中から産後の骨盤ケアが出来ることと性教育講座ができることです。

### ★地域で助産師として取り組みたいこと

退院後の子育てのサポートや母乳・育児相談・骨盤ケア等を気軽に受けられるように取り組んでいきたいです。また、妊婦や産後だけでなく、全てのライフステージにおいて健康増進や性に関わる相談等をしていきたいです。日本は先進国の中で一番性教育が遅れていることに危機感を感じ、親子の性教育や大人向けのお話会などを行っています。依頼があれば外部講師として講座を開催しています。

（取材：中尾慶子）



●性教育講座の様子



LABO助産院HP



## NEWS!

小さく生まれた赤ちゃんへ  
えひめリトルベビーハンドブック ついに完成！

ひめじょう通信17号でもご紹介しました、小さく生まれた赤ちゃんのご家族のための母子手帳サブブック「リトルベビーハンドブック」の愛媛版「えひめリトルベビーハンドブック」が完成し、2023年3月から配布開始となりました。対象は、愛媛県に住民登録出生体重が1,500グラム未満の方 または低出生体重児（2,500グラム未満）で手帳を希望される方で、県内のNICUを有する医療機関で配布しています（里帰り出産等で県外在住でも愛媛県内で出産された方は配布の対象）。NICUで受け取れなかった方や既にNICUを退院しており、受け取れなかった方は、市町の母子保健担当部署で受け取ることができます。冊子の作成には、愛媛助産師会も検討会メンバーとして関わっています。

このえひめリトルベビーハンドブックは、月齢単位ではなく赤ちゃんの個人差に配慮した記録欄が設けられているほか、先輩ママや助産師等からのメッセージも随所に添えられており、それぞれの赤ちゃんが自分のペースで成長してほしいという願いが込められています。生まれたときから満6歳までの成長や医療の記録ができるように作られています。

お子さんが多くの人に愛され、成長を見守られたことの貴重な記録になりますので、この手帳を見かけたら、ぜひ記録のお手伝いやメッセージの記入についてご協力をお願いいたします！

（リトルベビーハンドブック検討会メンバー：瀧本千紗）



●搾乳や産後ケアのこと、愛媛助産師会の紹介も記載されています。

●「えひめリトルベビーハンドブック」は県のホームページでも中身が公開されていますので、ぜひご覧ください。

新  
コーナー

ひめじょう LOVE



今回、もう一つ新しく誕生した「ひめじょうLOVE」のコーナーは、愛媛助産師会「通称：ひめじょう！」に入ってよかった！という声をご紹介して、助産師会の活動を通して広がる可能性を発信していきます。第1回の記事は、東予地区会の前山優子さんからのLove Letterです！残念ながら、転勤のため、この3月に愛媛を去ることになってしまった前山さん。愛媛での活動として、全国学会 in 愛媛の実行委員を務められましたし、東予さんばフェスタ in 今治では、今治のネットワークを駆使した前山さんの活躍が光りました！

## ♥ あったかいひめじょうの皆様へ感謝

しまなみ助産院・津 前山優子（三重県）

私は十数年前、県外から愛媛県今治市に移り住み、地域のことが何も分からない中で助産師会に入会しました。愛媛助産師会（以下、ひめじょう）の第一印象は、「とってもあったかい！！気候と同じ！」でした。私は、東予地区会に所属していましたが、部会、研修、さんばフェスタ等、どの活動に参加しても皆が協力的で、ウエルカムの雰囲気でも温かく迎え入れてくれる風土がありました。

さんばの日、全国で唯一助産師の神様を祀る神社、高忍日賣神社との出会いも貴重でした。子どもも小さいので今年だけ…と思って参加した神事は、私自身が勝手に、助産師の神様に守ってもらえると思えたので、一度参加したら翌年からやめられなかったです。日常に追われ普段バタバタ過ごしていますが、年1回の神事により、また新たな気持ちで翌日から頑張ろうと思えるイベントです。愛媛に来るまでは神社のことも知らなかったの、ひめじょう会員というだけで巡り合えるのは、本当はとても有難いことだと思います。

しまなみ助産院を始めて5年、今治市からの委託事業も始まり、周産期医療関係者とも顔の見える良い関係ができたところで、今回、転勤のため家族で愛媛を離れることになり、活動を終了しました（2023年3月にしまなみ助産院閉院）。ひめじょうの活動を通して地域の方々とつながり、これからという時に本当に残念です。現在は三重県で“しまなみ助産院・津”として活動をはじめたところです。愛媛を離れましたが、今後もひめじょうの皆さまとつながっている、築いた関係は今後も続いていくと思いますし、あたたかい雰囲気、関係づくりを忘れず、新たな場所での助産師の活動に活かしたいと思います。

ひめじょうの皆さまに感謝！！

●R5年さんばの日

編集長よりお手紙：前山さんが愛媛にきて間もないころ、東予さんばフェスタ新居浜の開催前日の準備合宿（昔はいろいろやってましたね）で、お互いに子連れでマリナパークに宿泊して、夜遅くまでおしゃべりしながらイベント準備をしたことが思い出です。いつも、どこにでも顔を出してくれる前山さんの行動力を見習って、ひめじょうを活発にしていきますね！（今村）



みんなの  
まつじょまつやま助産院 院長交代  
「自然なお産を守る! : まつじょのこれまで…とこれから…」

全国でも数少ない、助産師会立の「まつやま助産院」は、私たちひめじょ会員の拠点ともいえる場所です。令和5年3月、助産院の院長交代という、大きな出来事がありました。そこで、これまで長きにわたり、院長を務められた**武智恵子さん**と、新しく院長に就任された**徳本千秋さん**のお二人を取材させていただきました。(取材：今村朋子)

## \* 武智さんがまつじょに入ったきっかけ…

【武智さん】病院(松山赤十字病院)で師長をしていた頃、地域で助産師がどのくらい必要とされているのか気になり始めたんです。でも、病院の中にとにかく見えないので、助産師会に入会して、(旧)松山助産院に手伝いに来るようになったのがきっかけです。勤務が休みの時、お産の時には呼んでもらったりしていました。

当時の助産師会は、高齢の先輩方が多かったので、私が助産師会に入ったらすぐ、支部長になったんですよ(笑)(H10年)。そして、東京の会議に何度も行くことになって、全国の助産師の活動を知ったんですけど、地域の助産師さんたち本当にすごいんですね。もう圧倒されてね…いっつも触発されて、愛媛に帰ってきよりました。

## \* 自然なお産への憧れと分娩台のない助産院へ

【武智さん】そうやって全国の助産師さんの活動を知る中で、フリースタイルとかアクティブバースとか、産む人が中心のお産を知って、憧れていきましたね。それで、院長に就任した時に(H14年)、昔の助産院にあった分娩台はのけました。その後、新しく建て替えた時(H18年)は「何をあいても、産む人の希望を最優先にすることを大事にしよう」と思って建てたので、もちろん分娩台はありません。やっぱりね、**産む人が、産みたいように産もうと思ったら、分娩台があったらできん**のですよ。そういう意味でも、建て替えは一番印象に残ってますね。資金の調達から経営まで力を入れましたね。

【今村】おかげで、こうして皆が集える場所があるんですね。

【武智さん】自分が分娩台のない量の部屋で1例目の介助をするまで、実際にフリースタイル分娩に立ち会ったことはないし、誰かに手取り足取り教えてもらうことは

なかったです。研修に行ったり、DVDを見たりはしましたけど。でも、いつもの仰向けが反対になっただけやしね。**赤ちゃんが生まれてきたら受けるだけ**ですよ。うん…、アクティブバースの本読んだら、誰でも介助できるんじゃないんですかね。



● 徳本さん と 武智さん

## \* 自然なお産を受け継ぐ!

【徳本さん】私は、武智さんに会うたびに「(スタッフの)空かないですか?」って、何回も言ってたんです。そして、ある時ついに「来てくれる?」って電話がかかってきて! まつやま助産院に勤めることになりました。

ここに来て13年、院長を引き継ぐことになって、不安の方が9割以上ですが、私が引き受けたのは、**数は少なくても「助産院で産みたい」って言うくださる方々が来れる場所を守らないといけない**と思ったからです。自然なお産について先輩方のいろんな知恵とか技術を教えていただいたので、それをもとに大事に続けていきたいなと…思っています。

## \* 武智さんから新院長の徳本さんにエール!

【武智さん】徳本さんのお産に対する気持ちは、何も言うことないです。あとは、人をまとめたり経営を頑張ってくれたら。とにかく自然なお産が大好きだし、自然に産みたい人の場所をつぶしてはいけないという強い気持ちがあるから、やっていけると思います。あとは、学生も受け入れとるし、後輩も育てていかないとね…!

まつやま助産院での22年間、本当に楽しかったです!

部会  
活動

2022.8.22 「保健指導部会集会在開催されました」

Online

## ❖ 産後ケアの課題や持続可能な経営が話題に

今年度初めての保健指導部会集会を、オンラインで開催しました。参加人数は4名で、各メンバーの活動状況の報告に始まり、現在困っていることや課題、助産師会への要望など、様々な話題に触れました。

特に、各市町村の産後ケアの取り組み、時間や料金の違い、市町村との連携など、産後ケアに関する内容が多く話し合われました。自治体によって産後ケアの内容や料金にばらつきがあり、里帰りの方への対応など県レベルでの課

題解決が必要だという意見も出てきました。

更には、開業助産師のお悩みあるある「経営や資金調達に関して」も有意義な情報交換ができ、持続可能な経営のための参考にもなった貴重な時間でした。個人経営の開業助産師が多い愛媛では、定期的に情報交換できる場が必要であると実感しました。これからも、メンバーで気軽に意見交換し、支え合い、県内の妊産婦支援の輪を盛り上げていきたいと思っています。(保健指導部会長：三宅彩香)

## 母子保健奨励賞受賞おめでとうございます

現在、保健指導部会長として活動され、ひめじょ17号で、あやか助産院の取材をさせていただいた三宅彩香さんが、「令和4年度 第44回 母子保健奨励賞(母子衛生研究会・母子保健厚労顕彰会主催)」を受賞されました。

11月の受賞式典には、まだ1歳のひかるくん

と一緒に東京まで行かれたそうです! ひかるくんも、三宅さんの日頃の助産師活動をパートナーとして支える功労者ですね。表彰式の後には、秋篠宮皇嗣妃殿下(紀子様)に接見してお話する機会もあり、とても貴重な経験になったそうです。これからも、更なるご活躍をお祈りしております!





R4  
南予研修助産師が知っておきたいベビーウェアリングという支援  
2023.2.5 平尾 時栄 先生（出張助産所 maruko）

Online

## 助産師の支援の幅が広がるベビーウェアリング！

愛媛助産師会理事 大正湯 4代目  
高橋 砂智子

『ベビーウェアリング=babywearing』という言葉に耳にしたのは初めてで、『赤ちゃんを着るってことなん？』と素人感覚でした。けれども、研修が終わって、『なるほどっ！』と納得し、助産師として支援の幅が広がった強みを感じました。

ZOOM開催でしたが、平尾時栄先生が分かりやすくポイントを押えながら講義と実技を交え説明され、準備した腹帯と5kgの米袋を使って『兵児帯抱っこ 後ろ結び』など、スムーズに実技ができました。かなり、密着感があり、5kgの米袋を前に抱えても腰など体の負担も少なく、動きやすさと安定感がありました。そして、赤ちゃんの顔が近く、まさに、赤ちゃんを着る、身に纏う感じです。

研修を受けながら、自身の子育の事も思い出していました。夫も育児に協力的でしたが、抱っこやおんぶはやはり私でした。家族でホームビデオを見返す時がありますが、やはり私が抱っこしているシーンが多いので間違いのないでしょう(笑)

年齢と共に成長する我が子の重みを感じることは嬉しい反面、重労働かつ負担とも言えるのではないのでしょうか。道具1つで手軽で簡単にでき家事をしながら児との会話や時間を共有出来る事は、母親にとって喜ばしい事だと思います。

研修の中で、“抱っこやおんぶは養育の基本”とありました。確かに、抱っこやおんぶをすると児は落ち着き、機嫌もなお、笑い、さらに寝る時もあり、守られていると安心するからなのでしょう。ベビーウェアリングの利点として、心身両面で一体感を得られ、児の「身体的信頼感」獲得の一助にもなると言われています。

新人の頃、先輩助産師から、“母子をつなぐ臍の緒を切った責任として、その代りとなる絆をつなげる関わりは助産師として大切な役割だよ”と言われた事があります。今回の研修で身につけた知識やスキルを活用し、ワンオペ育児やコロナ禍による孤立など、不安を抱えている母親やご家族へ、新しい繋がりを築けるような支援を行いたいと思います。



●左：画面越しにわかりやすく説明してくださる平尾先生。

●右：画面の前で兵児帯での赤ちゃんの抱っこに挑戦する参加者の皆さん。



YouTube



【東京都助産師会】

『へこおびを使った抱っこの方法：ママ・パパ向け』に平尾先生が出演されています。東京都助産師会の動画コンテンツの豊富さには脱帽です！

## 実技を学びあうオンライン講習！

今回の研修は、実技のある研修をオンラインで行うという画期的な取り組みでした。先生の説明に合わせて、赤ちゃん人形を抱っこする参加者の皆さんが画面にすらりと映る姿を見て、別の場所にいても、一緒に実技するという実感を感じられる不思議な体験でした。研修に参加された、関さんの「研修が終わったら赤ちゃんを抱っこしたくなりました。サラシは本当に心地よくて温かったです。」という感想に、「本当にそう！」と共感しました。人形の抱っこだけでもオキシトシンが活性化されて心地よさを感じることができ、抱くということがいかに本能的で幸せなことか実感できる研修でした。（今村）

お産グループ  
研修

## まるまる育児について

共催：(有)青葉 2023.3.12

対面

2月の抱っこの研修の後、3月には「まるまる育児」の研修が開催され、助産師の子育て支援活動の幅が広がる企画が続きました。この研修は、対面で行う研修のため、コロナ禍でずっと延期していたもので、やっと実現することができました。

実技の練習では、それぞれバスタオルと赤ちゃん人形を持参して「まるまる抱っこ」や「おひなまき」の練習をしたり、「おとなまき体験」では、赤ちゃんの気持ちになってみようという感じで、自分自身が布に包まれて、丸くなるのを体験しました。

まるまる育児は、胎内姿勢と同じような、丸い姿勢で寝かせてあげる方法です。赤ちゃんを布団に下ろすと泣く…といったように、児の啼泣によって母が困っていることが多いのは、日々の勤務の中で感じていました。ポジショニングが、睡眠の増加、安静保持に有効であるという研究が発表されており、ポジショニングマットの活用、まるまる育児の活用によって、児の睡眠を促すことができれば、母の育児負担が軽減できるのではないかと感じました。

（お産学習グループ：まつやま助産院：徳本千秋）

**会員マイページが**  
メインの情報発信ツールとなります。  
**いつもご覧になるメールアドレス**  
を登録してください！



●会員マイページのQRコード

●皆さん、助産師会の**会員マイページ**の登録はお済ですか！？  
R4年度から、**ひめじょの研修の申込も会員マイページを使った参加申し込み・支払い**へと変更され、とても便利になりました。  
今後は、マイページに登録されたメールアドレスへの情報配信がメインになりますので、情報が確実に受け取れるよう、いつも使っているアドレスを登録してください。なお、メールの受信と関係なく、マイページには、パソコンでもスマホでもどこからでもアクセスすることができます。

会員専用ページログイン

ログインID  
「会員番号」または「メールアドレス」

パスワード

パスワードを再入力してください

パスワードをお忘れの方はこちら

ログイン

ひめじょ月次 様

会員番号 : 381103

所属 : 愛媛県

会員種別 : 会員

マイページトップ

・会員情報の確認・変更

・研修会受講 / 受講履歴

・メールマガジン申請

・HP掲載所一覧掲載申込・変更

研修会・セミナー受講 / 受講履歴 詳細

【日本助産師会】第78回日本助産師学会

| 年度   | 主催     | 研修コード | 期間                    | 開催場所  | 備考                                                                                                                                      |
|------|--------|-------|-----------------------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2022 | 日本助産師会 | 001   | 2022/05/28～2022/06/30 | オンライン | 第78回日本助産師学会はこちらからお申込みください。お申込みをするとすぐに自動返信メールを送信します。返信メールフォルダに入ることもありますので、必ずお申込み後、必ずお申込みの届いたかどうかを確認してください。お申込み後、必ずお申込みの届いたかどうかを確認してください。 |

皆さんへの一斉配信の情報は、メールと公式LINEの両方で流します。パソコンはメールで、スマホはLINEで…と、使い分けてもいいですね。(gmailをお使いの方は、容量オーバーでメールが届かないことがあるようですので、容量にご注意ください。)

**ひめじょ**  
**LINE公式アカウント**  
便利です！

LINEユーザーの方は、ぜひ「**お友達追加**」をお願いします。**会員・非会員を問わず、どなたでも登録可能**ですので、ひめじょの活動に興味がある方に、こちらの公式LINEをお知らせください。

●愛媛助産師会の情報を便利に届ける、**LINE公式アカウント**！  
研修やイベントなどの様々な情報を皆様に発信していきます。

**友だち募集中**

@583eojlo

うれしい仲間をLINEでお知り！



**マメールからの**  
**ひめじょメールは**  
**9月末で配信終了**します

これまで長く活用してきた**マメール**での**ひめじょお知らせメールシステム**は、R5年9月いっぱいまで終了します。今後は、マイページ登録のアドレスへのメールとLINEでの情報発信となります。これまでご登録いただきありがとうございました。



♥ **読んでみん犬(けん)！？**

「**児頭回旋を極める 回旋異常のメカニズムとその対応**」飯田 俊彦 著

私の愛読書、10年ほど前に発行された「アクティブパース・サイエンス：現代自然分娩のすすめ：メディカ出版」の著者、産婦人科医師の飯田俊彦先生の新書が出ました。その名も「**児頭回旋を極める**」です！

分娩の3要素がうまく組み合わさることで生じる、見事な現象…回旋！しかしお産の現場では、回旋異常が起こり、分娩遷延→帝王切開…となるケースにも少なからず出会うと思います。そのような帝王切開を少しでも減らせたら…という筆者の思いから、1冊の全てが、回旋の機序と回旋異常の原因と対処に特化した、本当に専門的で実用的な書籍です。

ところで皆さんは、普段、どのくらい回旋を意識して分娩進行を診ておられますか？ 内診だけでなく外診をはじめとする、様々な情報を駆使して子宮内の胎児を3Dで捉え、早めに回旋異常を診断し対処することは、「分娩を正常に導く」という使命を持つ助産師として非常に重要な技だと思います。それを実践される皆様に敬意を表して…、共に、回旋を極めましょう！

今回の読んでみんけんを、天国の鎌田さんに捧げます。助産師会の理事も務められ、多くの方から慕われた鎌田さん。実はこのコーナーを気に入ってくださり、「次の読んでみんけんは何？」とこっそり聞いてくれた鎌田さん…。だからいつも、鎌田さんに「読んでみんけん？」と言えるような本を…と、思いながら探すのが習慣になっていました。これからも、同じ思いで紹介していきますね。(編集長：今村)



メディカ出版  
2022年発行

## ★ 新入会の手続きはコチラからどうぞ！

(社)日本助産師会への入会手続きがオンラインで簡単にできるようになりました。QRコードの「**▶入会申し込みはこちら**」のボタンからご登録いただき、自動返信メールの案内に従って入金してください。



\*入会金：初年度のみ 10,000円 ※1

\*年会費：日本助産師会 15,000円

愛媛助産師会 5,000円

合計 30,000円

※学生賛助会員から正会員に移行の方は、入会金は不要です。  
次年度からは年会費の20,000円が引き落としになります。

## (一社)愛媛助産師会 事務局 連絡先

- 住所：〒790-0804 愛媛県松山市中一万町2-1  
愛媛県助産師会立まつやま助産院内
- TEL/FAX：089-945-6757
- Email：[ehime@himejyo.jp](mailto:ehime@himejyo.jp)
- 振込先：伊予銀行 一万支店(普) 1805570  
一般社団法人 愛媛助産師会

●ウェルカム ひめじょコーナー● ひめじょ17号掲載以降4月末までに新入会および転入の会員の皆さまを紹介します。  
◆中予地区(9名) ◆東予地区(5名)  
ご入会ありがとうございました！

**編集後記** ひめじょの皆さま、こんにちは！ 今回も皆様にお伝えしたい内容が盛りだくさんで、編集委員が総力取材をした結果、12Pの拡大号となりました！(これが当たり前になるとツイツイイしますが…) 新コーナーはいかがでしたか？ ぜひ、感想をお寄せください。今回は、ひめじょの取材を通して、たくさんの施設におじゃましたり、たくさんの方々からお話を伺うことができました。取材のたびに、それぞれの思いや活動に触れることで、ものすごいパワーをいただき、やっぱり人とつながるってすごいことだなあ…と感じました。皆様「取材です」の一言で、お忙しい中でもご協力をいただき、心から感謝いたします。次はあなたのとこに行きますよ！(編集長 いまむら)

